

令和7年度 新潟県スポーツ推進審議会 議事録

1 日時

令和8年3月25日（木）13:30～15:00

2 会場

新潟県庁行政庁舎1階103会議室

3 出席者

審議会委員16人のうち、13人出席

西原 康行		嶋田 愛	
青野 光子		柄澤 宏之	
平山 祐子		若井 由梨	
渡邊 優子	欠席	本間 謙一	
星 枝里	欠席	高橋 誠	欠席
田中 加織		大森 豪	
栗原 康祐		小野塚 彩那	
相馬 孝子		福崎 勝幸	

(敬称略)

4 内容

- ・開 会
 - ・開会のあいさつ
 - ・委員紹介
 - ・定足数確認
 - ・会長・副会長選出
 - ・議 事
 - (1) 第1期新潟県スポーツ推進プランの評価等について
 - (2) 令和8年度におけるスポーツ団体に対する補助について
 - ・その他
 - (1) 新潟県スポーツの推進に関する条例に基づく施策の実施状況の公表について
 - (2) 部活動地域展開について
-

○議事 (1) 第1期新潟県スポーツ推進プランの評価等について

(事務局)

資料1を説明

(西原会長)

それでは、これからご意見ご質問ありましたら、お願いします。

(柄澤委員)

9年間の成果ということでいろいろ書いていただいているんですけども、最後の課題と今後の方向性については、書き方というかが、議会答弁みたいな感じでちょっと耳障りの良い言葉が並んでいて、どういう状況を目指すのかっていうところが、あまり書かれていない。諸々取り組むとか支援するとかいうのは良いです。誰がどう支援するのか、予算なのか、人を配置するのか。取り組みとしては、どこの団体が、どう取り組んで、どういう状況を目指すのか。というところ、方向性をもっと細かく書かないと、ここには書いてあるけど、じゃあ誰がやるっていうのが決まってないからという話になると誰も取り組まないですし、どこを目指して、何を支援してもらえばいいのかっていうところも見えてこないの、ここまで課題が明確であれば、どういう風にしていくべきかという案を各団体なりに確認して、書けるんじゃないかと思います。

その時点でできる、できない、当然分かるわけなので、そこを踏まえた上で、この方向性なり、課題を書いていくべきかなど。課題の方については、表面を撫でた人でも書けるような課題ですね。本当はもっと、現場でやってる人、例えば、部活動の地域展開であれば、今まで先生方がサービスでやってたものを、地域のスポーツクラブにおろすとなると保護者負担が増えるとか、子供たちの移動が大変であるとか、そういった諸々の、もっと細かい、そこの課題みたいなところが見えてくるはずなんですけども、そういうところを明らかにしていけないと、せっかく作るものが何か魂が入ってないような感じになるので、そこもちょっと直していったほうがいいんじゃないかなと思います。以上です。

(西原会長)

ありがとうございました。

その辺の修正はいかがでしょうか。

(スポーツ課 金田課長)

ありがとうございました。

今ほどの課題と今後の方向性のところというのは、これまでの振り返り、総括であって、第2期スポーツ推進プランの策定にあたって、色々と皆さんからご議論いただいた方向性を落とし込んだという形になっています。

この資料の中でもっと明確化を図ったほうが良いのではないかと、ごもっ

ともなところで、第2期スポーツ推進プランとの整合性も踏まえながら、作らせていただいたんですけど、具体的に、明確化という中で、色んな関係団体、市町村との色々な協議とか、色んな方が関わっていく中での施策なので、単純じゃないんですけど、もう少しこう明確化するっていうのは、そこはそこで課題かなと思います。今後の資料作りの参考にさせてもらえばというところです。

(柄澤委員)

これは振り返りなので、これまで9年間やってきて、明確になった課題は何かというのが多分出てきているはずですよ。その課題について、どう克服して、どういうふうに向向性を出していくのか、もう既に作った第2期プランと整合しない部分があってもおかしくはないと思うんです。

なぜならその第2期プランを作るときには、その課題がすべて整理されてないところで作っているところもあるでしょうから、ここで9年間振り返った部分をさらに修正するのか、どうなのかとかもあると思いますけども、現実と合わないからしませんというのは、それは違うんじゃないかなって、私は思うんです。この9年間の成果及び課題が出てきている。それを落とし込んだ上で、じゃあ方向性どうしますかっていうのを検討するのが、この会議なんじゃないかなと思っています。以上です。

(スポーツ課 金田課長)

第2期プランの整合性に合わせて、その後のことを書かないというわけじゃなくて、皆様に1年間ご審議していただいて、整合性を図っていくとともに、また新たなものがあれば、そこはそこで皆様にご審議いただくにあたって、考え方や色んな方が関わるので、単純なものではないですけども、資料作成の中で、参考にさせていただく、より明確化していくっていうような方向性として考えています。

(西原会長)

誰が何をどう進めていくかという、誰がというのが、課長がおっしゃる色々なスポーツ団体とか市町村、県、色々あると思うんですけども、次の時はもう少し具体的に主語を設定していくとか、何をどうしていいか、もうちょっと掘り下げたところは、何かこう出てくるといいのかなという気はします。また検討していただければ。

(平山委員)

基本的なことですけども、去年、令和6年度までの計画です。なぜ今なのかと、今のタイミングになるかというところが非常に疑問に思ったところです。先ほど柄澤委員からお話ありましたけれども、ここに今後の方向性というところが記載をされています。この方向性がいま課長さんがおっしゃられましたけれども、第2期プランにどのように反映されてるのか、したのかというところが、正直見えてこなかったというところです。この場で方向性というところをお話をいただいて、実際それが次期プランとずれてるとか、ずれていないのかというところも見えてこないという中で、私のこの立場で何をお話すればいいのか、どういう意見を申し上げればいいのかというところが正直

わからなかったというところでございます。

(スポーツ課 金田課長)

去年は5回審議していただいた第2期スポーツ推進プランで積み上げてきたというところがあって、審議会は年1回実施ということで、次の審議で議論していただく議事のスポーツ団体に対する補助が予算が決まらなないと審議できないってということもあって、どうしてもこのタイミングになってしまったのは、悩ましいというところでございます。

委員の皆様には、今回の条例に基づく施策の実施状況というものは、例年、この審議会に合わせて3月に皆さんに配付していたものを前倒して12月に早くお示ししようということで対応したところでございます。時期的なものは、年に1回程度しかできないので、色んな制約がある中で、どうしたら良いのかというのは、検討していきたいなと思っています。

(平山委員)

確認だけさせてください。今回の総括の中で書いてあります、今後の方向性というところは、現段階において第2期プランとの整合性がとれているというところで間違いのないということでしょうか。

(スポーツ課 金田課長)

これは間違いありません。

(西原会長)

第2期プランがここに示されれば、分かるんですけど、それが出ていないから、分かりにくいところがあったと思うんです。整合性はあるか、ちょっとわかりづらかったと思います。

(スポーツ課 金田課長)

もう少し工夫すれば良かったと思います。

皆様のご指摘いただいたことは反省点であります。

(柄澤委員)

国主催研修で学習指導要領の趣旨を踏まえた事業改善に関する内容を伝達講習等を通じ広く周知するというところが、私のような学校教育を不勉強な人が、これがどういうことを言っているのか、分からないところがあります。指導主事の派遣も自由にできるものなのかというところも良く分からないのですが、学校の中で片付くような話なのでしょうか。

(保健体育課 間副参事)

わかりづらい表現で大変申し訳ございませんでした。

まず授業づくりの改善をするために、国が主催しています中央研修に、3人の小中高校の先生方をそれぞれ1名ずつと県の保健体育課の指導主事を1名派遣しまして、4名が中央研修に毎年行っております。その4名が県内の伝達講習会の講師となりまして、

オンデマンドで、毎年、国の直近の課題等について、県内すべての学校に周知をさせていただいているところです。

これまでは、こちらからの情報発信だけに偏ってしまっていて、学校に直接指導主事が足を運ぶ機会がないというところに課題を感じておりましたので、令和6年度から県内小中高校3校ずつ学校を選びまして、指導主事が各学校に訪問させていただいて、その学校全体の体力向上の取り組みであるとか、保健体育授業を参観させていただき、先生方とお話をさせていただき、その好事例を報告書という形で取りまとめまして、各学校に周知をし、授業改善等に生かしていただいているというような意味合いでございます。

(柄澤委員)

ここで言う情報発信の発信先は学校の先生ということなんですか。

(保健体育課 間副参事)

はい。そういうことです。

(柄澤委員)

わかりました。

ここの文章だけ見ると、今までやっていたことを、間さんがおっしゃったように、学習指導要領の趣旨を踏まえて、国の研修に4名派遣してその人たちに伝達講習を現場の先生方にするというところをやったんですけど、6年度から新たな試みをしていくところですよ。むしろそう書くと良いかもしれませんね。

(保健体育課 間副参事)

ありがとうございました。

○議題 (2) 令和8年度におけるスポーツ団体に対する補助について

(事務局)

資料2を説明

○その他 (1) 新潟県スポーツの推進に関する条例に基づく施策の実施状況の公表について

(事務局)

新潟県スポーツの推進に関する施策の実施状況を説明

(柄澤委員)

条例に基づく実施状況ですが、目的があつて事業概要があつて、そこで終わっている。実施状況というのは、事業の結果といえ、この事業でこうなったみたいなど

があるのが、実施状況ではないかと思うんですけど。そこは書かないですか。

例えばこの8ページで、安全で安心なスポーツの推進があって、競技団体の適正なガバナンス推進ということで、予算の項目があって、目的があって、こういうことをやりますっていう事業概要がありますが、どれを何回やりましたとか、誰が何人出ましたとかっていうのが、実施状況じゃないかと思うんですよ。これだと概要説明でしかない。実施状況の説明資料であれば、そのような、どういう形で、どんな規模で、どう実施しましたっていうのがないと実施状況の説明にはならないんじゃないでしょうか。

(スポーツ課 金田課長)

ご指摘のところは、確かにそうですけど、他の項目では、例えば何人とか何回とか、書いてあるところもあって、ただおっしゃるとおりなところもあるので、足りないところは、検討したいと思います。

(柄澤委員)

23ページは施設を活用した国際大会をやりますと利用者数が出ているんですけど、過去に開催された大会等が載っていて、令和6年度に何の大会をしたかっていうのは、書いてない。令和6年度に予算を使って実施した状況を説明するのが、この実施状況の説明ではないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

(スポーツ課 金田課長)

そうですね。どこまで表示するかですけども、あまりこう数字ばかりというところよりも、見やすいというところで、写真とかを掲載して工夫はしているところなんですけれども、どこまでどうあらわすかとか、それは見やすさを含めて改善していければと思います。

(西原会長)

これ公表はいつですか。

(スポーツ課 金田課長)

12月です。

(西原会長)

公表している。具体的にもう少し数字があれば、ぜひ次年度の公表のところで、中身のところ出していただければと思います。

例えば、公表したことで、どのくらいの皆さんが見ているのかなっていうのが、すごく気になると思うんですけどね。分からないですよ。アクセス数のようなものは。

(スポーツ課 金田課長)

把握しておりません。ICT推進課に確認しないとかなと。

(栗原委員)

いまお話いただいたところが、まさに私もお聞きたかったところで、公表されたところで、どれぐらいの反応があったのかなというところは、やはり一番気になる部分かなというふうに思いますし、ホームページの公表が一番基本的に大事な部分かなというふ

うに思うんです。過去の推移も含めてどういう状況になっていて、ここはすごくポジティブに進んでるんだけど、ここにはまだ課題があるよみたいなところを、お示しいただけるようなことがあると、より本来の目的である県民の皆様にとってわかりやすいものになるんじゃないかなというふうに思っておりました。

あとは、すべてを網羅的に全部表現するのは、なかなか難しい問題だなというふうに思うんですけども、例えばサマリーみたいな形にして、こういうものは概要としてはこうだったよと、さらに細かい部分に関しては、過去推移を含めてお示しをいただいた中で、こんな課題がある、ここはすごくポジティブに進んでいる、というところを発表していただけると、とても有益なんじゃないかなというふうに感じたところでした。以上です。

(西原会長)

確かにそうですね。重点的にやったところとか、サマリーみたいなものにしてもいいかもしれない。

(青野副会長)

第2期プランの成果指標の卒業後にも運動やスポーツをしたいと思う児童生徒の割合で小学生5年生が90%、中学2年生が90%という数字は、第2期プランの指標、目標の数字ということでしょうか。

(保健体育課 間副参事)

はい。

(青野副会長)

運動が好きかに肯定的な回答をした児童生徒の割合、それから授業が楽しいかに肯定的な回答をした児童生徒の割合というのが出ておりますが、男子と女子でかなり数字の差があります。それをトータルして90%としたのか。

それから、男子はもう90%を超えていますが、特に女子の運動嫌いが大きくなればなるほど、非常に二極化する方向ということがよく指摘されておりますが、90%というアバウトな数字で捉えてもよろしいでしょうか。

(保健体育課 間副参事)

第2期新潟県スポーツ推進プランの成果指標とさせていただいている、卒業後にも運動やスポーツをしたいと思う児童生徒の割合につきましては、男女合計した数値になっております。主な成果のところに出ている、運動好きであるとか、体育の授業が楽しいかといったところが、男女別になってはいますが、成果指標90%は男女の合計値になっております。

(青野副会長)

卒業後の調査というのは、どれぐらい過去のデータがあるのでしょうか。

(保健体育課 間副参事)

いま手元にございませんですけども、スポーツ庁が実施しております全国体力運動能力・

運動習慣等調査というもので、全国の小学校5年生と中学校2年生、悉皆の調査になっています。体力テストの数値を報告するとともに、スポーツ庁が設定するアンケート項目に、児童生徒が答えて、それを国が発表しているものです。その中にこの指標がありまして、国も第3期スポーツ基本計画でこれを目標にしておりますので、新潟県もその目標に合わせて、県の第2期スポーツ推進プランの成果指標とさせていただいたところですので。

(青野副会長)

なるほど。スポーツ庁の数字をそのまま県の目標としているということですね。

(保健体育課 間副参事)

そうです。

(青野副会長)

県で今まで調査をやっていたのかなと思ったところでございます。

ありがとうございます。

それからもう1点ですが、同じページの幼児、児童という表現がされておりますが、成果指標を見ますと児童がほとんどで、幼児に関するデータとかがほぼない。幼児教育の方が専門ですので、どのぐらいやられているのかなという数字とか、実際の成果ということがどうなっているのかが、記載から少ないなというのが印象ですが、その点においてはいかがでしょうか。

(スポーツ課 佐藤)

幼児のデータについては、スポーツ庁で収集しているわけでもなく、県で調査しているわけではないので、目標にするのは難しいかなというところがあります。幼児につきましては、令和4年度まで幼児期の運動遊びの指導者講習会を県で実施しております。その後も講習を受けられた方々へのフォローアップを進めております。今年度はもう少し間口を広げようということで、幼児の運動遊びに関わる方々を広く対象にして、研修会を人材養成事業で実施しているんですけども、その他にも、総合型地域スポーツクラブやスポーツ団体が利用できる好循環創出事業がありまして、その中でも、県央ネットワークという、三条市を中心に7市町村のスポーツ協会が集まった団体において幼児期の運動遊びをテーマに取り組まれているという事例もあります。また、新潟県スポーツ協会さんでも、スポーツ体験キャラバンというものを実施されたり、新潟県レクリエーション協会さんでも、親子の運動遊びを実施されておまして、お話を聞くと来年度は雪を使った親子の運動遊びというものも計画されていると聞いております。そのような取り組みを県としても、引き続き、連携、協働、支援をしていければというふうに考えております。

(青野副会長)

色々な関係団体はたくさんやられてるけれども、県は特に把握されていらっしゃらないという理解でよろしいでしょうか。

(スポーツ課 佐藤)

データとしてそのような取り組みを収集していないので、目標など設定するには難しいかなというふうに考えております。

(青野副会長)

そうすると県の教育委員会が主催するような、そういう研修会とか講習会とか、指導者養成とか、そういうのは取り組まれていないという理解でよろしいでしょうか。

(保健体育課 間副参事)

教育委員会で幼児を対象とした指導者研修会は行っておりません。

(青野副会長)

私の希望といたしましては、やはり県の教育委員会が旗を上げて引っ張っていただけるとより幼児期の運動遊びの活動が活発になって、特に年中、年長というのは身体能力もどんどん発育発達を遂げていく時期で、すごく運動の志向性の分かれ道となる大切な時期だと思うんですね。

ここで幼児という言葉が出てくるのであれば、その辺の他の関係団体の指標等も含めながら、かつ、県の教育委員会が指導された講習会、研修会が、公にされるとよろしいのかなと思いました。

(保健体育課 間副参事)

はい。ありがとうございます。

○その他 (2) 部活動地域展開について

(事務局)

資料3を説明

(福崎委員)

本年度中に25市町村で地域展開が完了し、他5市町村が令和8年度中に完了しますという計画のようですが、25市町村と言いますと大体80%の市町村が取り組んでいる、残りは20%あるわけです。地域クラブの登録生徒数を見ると、いま現在23.6%というところであります。そうしますと、約75%の人が登録されていないということだと思います。この登録をされない75%の人たちをどのように、加入への働きかけしているのかを教えていただければありがたいです。

(保健体育課 桑原副参事)

現在加入してない約7割のこどもたちの今後の対応ということだと思いますが、あくまでも現在、部活動と各市町村で認定をした地域クラブ活動に参加しているこどもたちの数ということで、当然そこには含まれていない、民間のクラブ活動に入ってるこどもたちも、相当数いるのではないかなというふうに思っております。そのところをまだ調

査を実際しているわけではないんですけども、例えば、そうした生徒達への働きかけとしましては、長岡市さんが先ほど来しているような、多様な活動機会、佐渡市でありましたら、鬼太鼓だったり、伝統芸能を継承するようなクラブ、それからボルダリングだったりとか、アーバンスポーツだったりというようなところで部活動にない種目を増やしたり、または競技力向上を目指したい子もいれば、少し体を動かすだけでもいいというようなそういう生徒がいます。現在、学校部活動の教育的な意義の継承というところだと、実際やはり子どもたちのご意見を聞くと、競技力向上だけを求めてないというか、子どもたちと一緒にやりたい、他の中学校の友達と一緒にできるクラブが良いというような、そういう意見もありますので、そうした観点で、今現在、市町村の方からはですね、子どもたちの多様なニーズに応じた取り組みを進めていただくように働きかけています。

(福崎委員)

クラブを作りましたといったときに、全エリアの子どもたちが参加できる環境にあるのかが、大事になってくるのかなという気がします。私は十日町でありますけれども、実際にできないという子どもたちがいっぱいいます。そこに対して、どのような取り組みをしているのだろうというところが、この中でちょっと見えないものですから、できればその辺の取り組みを、ここにあらわすなり、あるいは今後推進していくような方向を表現できないか、そのようなところを感じたものですから質問させていただいたということでもあります。

(保健体育課 桑原副参事)

そうした課題は、十日町市さんだけでなく、多くの市町村で同じような声が聞かれているところがございます。こうしたところも含めまして、いま国でやっております事業を活用しながら、そういう取り組みを各市町村で進めていただくというふうには考えておりますが、やはり我々としても、例えば先進的な事例で、ICTの活用をしながら、どこにいてもスポーツ指導が受けられるようなそういう環境整備だったり、そうしたところの取り組みを、横展開をしっかりとしていきながら、子どもたちがどこに住んでいても、スポーツ活動できるような活動機会をしっかりと作っていきたいと思っております。

今はまず休日なので、平日に部活動やっていた子どもたちが、休日は70%以上が認定クラブにいかないという話ですけど、平日になったときには、やはり相当数の子どもたちがその活動ができなくなる、そこはすごくハードルが高くなるんだろうなというふうに思います。それに向けて、いま準備をしているという状況かなというふうに思います。

(大森委員)

ありがとうございます。私かねてからこの会では部活の地域移行に伴う、指導者の方のスポーツ医科学の知識およびスポーツ外傷・障害にへの対応の質の向上に対して意見

をさせてもらっていたのですけれども、新潟市では新潟市スポーツ協会と新潟市教育委員会と新潟市の中体連が連携協力しまして、今年度は初めて通年で年3回の指導者の方々に対する研修会を行いました。非常に多数の方々に参加していただきまして、通年を通して様々な領域のスポーツに対する知識を学んでいただくという手応え得たと思っております。

今日の会議で、西原先生をはじめ、新潟県内でも様々な指導者の方々への研修会が行われているということをお聞きしましたがけれども、ぜひ今後はそこに我々が新潟市で行ってきた取り組みを相談させていただいて、指導者の方々のスポーツ医科学に対する知識というか、そういうものの向上に協力させていただきたいと思っておりますので、一応ご紹介させていただきます。

(保健体育課 桑原副参事)

大森先生、本当にありがとうございます。

ぜひ、引き続き、県の教育委員会と我々もぜひ取り組みを進めさせていただきたいと思っておりますので、ちょっとまたご相談させていただいたと思います。

よろしく願いいたします。

(西原会長)

部活動の委員の立場としてですけども、次の年度からですね、いまもそうですけど、安心安全のところをかなりカリキュラムを増やさなきゃいけないと思うんですよ。

そこは今、教育委員会ともこれから練っていきますけども、そういう意味では大森先生を中心にですね、スポーツ医科学の安心安全のところですね、そのところをぜひ充実させていきたいと思っておりますので、応援ぜひよろしくお願いいたします。

(柄澤委員)

桑原さんに他のところでもちょっと確認したことはあるんですけども、令和4年度から運用開始されています登録認証制度と地域クラブの認定、総合型地域スポーツクラブは何を目指すべきなのかというところを前にもお聞きしたんですけど、その答えがまだいただけてないかなと思って、認証登録制度と、地域クラブ活動の市町村からの認定、これについてはどういう位置付けで、何をを目指すべきなのかというところをちょっと教えていただきたい。

市町村の総合型地域スポーツクラブが、まず令和4年度から登録認証制度に向かってやってくださいっていうのが、国から降りてきて動いているんですね。さらにそこに地域クラブ活動で認定を受けるということが課されていると言われているわけなんですけど、総合型地域スポーツクラブが地域で部活動の地域展開をやる時には、何をやる、どれを取ればいいんだ、全部取らなきゃいけないのか、それともどれかを取る、そういったところの位置付けがよくわからないので、その説明をお願いしたいなど。要は総合型地域スポーツクラブの認証制度と実施主体となる団体の認定のところの整合性というところだと思うんですけども。

(保健体育課 桑原副参事)

そのところはまだですね、スポーツ庁であったりするところへの確認はまだ取れていないような状況ではあるんですけども、1つ村上市の希楽々(きらら)さんの方で地域展開に特化した認証を取得されたというようにところは聞いておるところあるんですけども、他のところについてはまだ、確認はできておりません。

(柄澤委員)

分かりました。認証を受けているクラブ自体の数がまだ多くなくて、どういったメリットが具体的にあるのかっていうものも多分示されてないと思いますし、この認定地域クラブ活動も公的支援とか書いてありますけども、どこまで支援してもらえるのかっていうところも、ちょっと定かでないので、そこは早めに情報提供してもらおう方がいいかなど。

今回の部活の地域展開の事業で主な課題が様々なところに若干入っていますし、福崎委員からの具体的な課題が示されていると思うんですけども、そのようなものを第1期プランの主な成果課題のところの課題で挙げて、そのためにどうすべきかっていう方向性を書くのが、本来のこれではなかったのかなと思いますので、次回考えていただければと。

(西原会長)

ありがとうございました。

柄澤委員がいまおっしゃった総合型地域スポーツクラブの認証登録がありますよね。認証であれば、スポーツ課が主体となって、スポーツ協会とともにやってきますよね。部活動の認証、認定クラブの関係性となると、県の中でも管轄が教育委員会とスポーツ課で違うし、国の方もそこ意識しているんですかね。

(柄澤委員)

よく知りませんが、多分おそらくされないですよ。

そう思われます。

(西原会長)

そうですね。国も意識してないから、そこはダブルライセンスという感じになるのか。取らされる側はどっち取っていいんだみたいなところもスポーツクラブの立場になってみるとそこは整理していただきたいですね。

(保健体育課 桑原副参事)

地域クラブに特化した認証を希楽々さんが受けてるわけなんですけど、どんなメリットがあるのかとか、そうしたところが、おそらくまだ国の方からもしっかりと示されていないような状況だと思います。生徒や保護者にとっての安心感とか、そういうところは1つあるのかなと思うんですけどもそれ以上のところについてはまだ国の方からは具体的なメリットは示されていないような状況でございます。

(西原会長)

新潟県内の総合型地域スポーツクラブは34団体でしたか。

(スポーツ課 金田課長)

はい。来年度4月から31団体になる見込みです。

希楽々さんは上手にやっていますけども、登録のハードルが高いとやめているところもあれば、そこは課題だなと思っていて、やっぱりもうちょっとメリットを出していかないとダメかなと私は課題だと思っています。

(西原会長)

逆に、新潟県は相場に比べて認知度すごい高いですね。すごいですね。

(スポーツ課 金田課長)

だから、国の方もちょっとメリットのところを出していただけないかなというところ
です。

(青野副会長)

75%の方がまだ登録されていないとか教員の労働環境の問題とか色々あって、我々、公教育の公立学校の活動で育ってきた人間からしますと、やはりいまの時代、スポーツをしたい、したいけれどもお金がかかるという状況で、会費負担の課題というのが、やはり親の収入格差というところから生じると思うのですが、ここの部分が解消されないと、運動したい、スポーツしたい、プロの大谷翔平選手のような、プロスポーツの世界で活躍するようなスポーツ選手になりたいと思っても、やはりそこは会費がやはりかかるわけですね。指導者も謝金が出なければならぬわけですし、まだ予算が確定はされてないとは思いますが、その辺の予算はどのくらい確保されて、今後伸びていくのか、その親の収入格差をどうこれから解消していくのかというところが、私は今一番気になるところですが、いかがでしょうか。

(保健体育課 桑原副参事)

お手元の資料2ページご覧ください。先ほど説明した国の来年度の事業概要であります
が、中段の(1)部活の地域展開、地域クラブ活動の推進という事業の中に、②に、経済的困窮世帯の制度や支援というものが、国が今年度はっきりとですね、支援を示しております。これをほとんどの市町村が家庭の経済状況に応じて、国が示した基準に合う要保護世帯の方々を対象にした参加費、具体的には大体月3,000円掛ける12ヶ月分程度プラス保険料、そこは国の方がしっかりと支援をしていくというメニューができて
おりますので、こうした事業を活用しながら、経済的な負担を軽減できるような形で我々も予算を計上しているところでございます。

(西原会長)

青野先生、ご指摘のように経済格差によるスポーツができる、できない二極化というのが、そこはやっぱり国としてもちゃんと補っていくということだと思えるですね。

(柄澤委員)

いま振り返りをやっているわけで、順番的には成果、課題を出して、方向性を聞いて

から、第2期プランを作るというのが、普通の流れかなと思うんですけど、第2期プランは1年も前に作っていて、作った後で第1期の振り返りの方向性を立てるというのは、何か順番としておかしくないかなと。何か違和感があるなと思ったら、多分そこなんだなと思いました。方向性とか、第2期プランと合っていますっていうわけなんですけども、1年も前に作った第2期プランと方向性が合っていますと言われても、今ほどの地域展開でもここに書いてないような課題となる方向性などがたくさん出てきています。多分順番としては、ちょっとずれているのかなっていうふうには思います。第3期プランを作るのは何年後かになるかと思いますが、そこをやるときは、第2期プランの振り返りと課題の掘り下げで方向性の策定ができてから、次期プランの策定に入らないと何のために振り返りをしているのかよくわからないというような格好になると思うので、そこは考慮していただきたいと思います。

(スポーツ課 金田課長)

柄澤委員のおっしゃっていることも思ったところでもあるんですけども、第2期推進プランを1年間議論させていただいた中で、作成時点で振り返りもしつつ、課題も整理して、第2期プランができて、反映され、今回はリバイスした形での書き方をしたんですけど、1年経っているというところもあって、今回タイミング的に少し難しかったところがあって、いまご議論をいただいたところは、またやり方を考えたいなと思います。

(西原会長)

分かりました、お願いします。ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。では、以上で議事を終了したいと思います。

皆様から忌憚のないさまざまなご意見をいただきましたので、これをいかして新潟県スポーツの普及、振興に力添えをいただければと思っています。では以上で議事終了しましたので進行を事務局にお返しします。